

高等学校第1学年 家庭科 学習指導案

期 日 平成28年10月18日(火) 第3校時

場 所 県立熊本高等学校 被服実習室

指導者 教諭 岩下 紀子

1 単元名

「炭水化物を多く含む食品とその働き」(第一学習社)

2 単元について

(1) 単元観

教育課程企画特別部会より示された「審議のまとめ(平成28年8月)」に、家庭科において育成すべき資質・能力の一つに「持続可能な社会づくりのための力」が明記された。「持続可能な社会に向けたライフスタイルの確立」は、家庭科教育で取り組むべき重要な柱であり、持続可能なライフスタイルの実現に向けては、自分や家族の安全の確保だけでなく、全ての生き物の次世代までを視野に入れた持続可能な消費(暮らし方)を選択していくことが消費者市民の社会的責任である、と言われている。

一方で、食を取り巻く社会情勢においては、食料自給率が40%で(農林水産省が示す目標は50%)推移しており、中でも我が国の主食である米の消費量は減少し続ける現実があり、国の抱える大きな問題の一つと言える。

これらのことから、本単元において、消費者市民として「企画『米を食べる!』」探究学習を行うことは、「堅実な意思決定」という資質・能力の獲得にもつながり、本校の学校教育目標の「土君子」及び目指す生徒像の「社会に積極的に関わっていく自立した個人」の実現につながるものであると捉える。

(2) 系統観

小学校	中学校	高等学校
B 日常の食事と調理の基礎 (3)エ 米飯及びみそ汁の調理ができること。 D 身近な消費生活と環境 (1)イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること。	B 食生活と自立 (2)ウ 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できること。 D 身近な消費生活と環境 (2)ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること。	(2) 生活の自立及び消費と環境 ア 食事と健康 健全な食生活に向けて、食に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 オ 消費生活と生涯を見通した経済計画 消費者の権利と責任について理解し、適切な意思決定に基づいて行動できること。

(3) 生徒観

○熊本高校は、生徒一人一人が主体性を持ち、学校生活に取り組んでいる。しかし、家庭基礎科目「炭水化物とその食品」に関する実態調査を実施したところ、炭水化物から摂取すべきエネルギー(総エネルギーの50~65%)を、日本人の主食である飯(米)から摂取している生徒は、クラスで2~3名であった。多くの生徒がパンやパスタ等の小麦食品、お菓子、砂糖からの摂取に偏っていた。高校1年生の米の1年間の消費量は日本の平均とほぼ同じ(約60kg)であったが、少ない生徒は年間10kg台であった。

(4) 指導観

○「炭水化物とその食品」に関する基礎知識や技術を活かして、生徒が主体的に企画する探究活動を設定する。この探究活動を通して、消費者市民としての視点を養い、「堅実な意思決定をする力」を育成していきたい。

視点1: 学びを引き出す

主体性を生かした探究活動の企画

①生徒が主体的に企画する探究活動(「米への思い」を表現する調理実習)に向けて、消費者市民としての堅実な意思決定をする視点を提示する。

②習得した学びを社会生活につなげていくために、考案した「米料理」を社会発信していく活動を提案する。

視点2: 学びを振り返る

思考過程の可視化と学びの振り返り

③探究活動である「企画『米を食べる!』」の調理実習後、コンクール形式で評価を交えながら、クラス全体での振り返りを行う。

④学習活動は協働学習への姿勢や他者への貢献、学習内容は単元学習前後の「健全な食生活の在り方」について、思考の変容を振り返る。

視点3: 学びを支える

学びのUD化

⑤対話的な学びを通して探究活動の相互検討を行うと同時に、一人一人が意見を出しやすい人数設定及び一人一人の対話を保障する流れの設定を行う。

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

単元の目標と評価規準	健全な食生活を営むために、「炭水化物を多く含む食品とその働き」に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、消費者市民として堅実な意思決定を行う力を身に付ける。		
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
①「炭水化物を多く含む食品とその働き」に関心を持ち、意欲を持って、学習活動に取り組んでいる。 ②消費生活と環境との関わりについて関心を持ち、消費者市民としての責任を自覚しようとしている。	①食生活について課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。 ②消費者市民としての責任を考え、具体的な社会事象に関する意思決定を行い生活意識や生活様式を見直している。	①家族の食生活を健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。 ②実践的・体験的な学習活動を通して、消費者として責任を持って、行動するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	①「炭水化物を多く含む食品とその働き」について理解し、健康で安全に営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ②消費者として責任を持って、行動するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

4 指導・評価の計画（7時間取扱い 本時5／7）

単元を貫く問い：企画「米を食べる」～消費者市民として、米を食べるための米料理を考案しよう～

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 自己の食生活を振り返る。 2 「健全な食生活の在り方」について考える。	【思考・判断】①：ワークシート 【学びを振り返る】 ④自己の食生活を振り返ると同時に、現時点における「健全な食生活の在り方」について考える。
二	3	3 「炭水化物とその食品」の知識を学ぶ① ・米の種類・栄養価、食品の特徴等 4 「炭水化物とその食品」知識を学ぶ。② ・米を取り巻く現状（自給率・伝統文化） 5 基礎技術を習得する。調理実習① ・米の炊き方（普通炊飯・湯だし・おこわ）	【関心・意欲・態度】①：ワークシート 【知識・理解】①：ワークシート 【技能・表現】①②：ワークシート 調理実習中の観察記録
三	2 (本時1時)	6 探究活動「企画『米を食べる!』」 【本時】 (1)企画に関する探究テーマ及び・米料理を考える。(個人→班) (2)対話的な学びによる探究活動の相互検討 (3)「企画『米料理』」の調理実習②	【思考・判断】②【技能・表現】①②：ワークシート 【学びを引き出す】 ①生徒が主体的に企画する探究活動に向けて、消費者市民として堅実な意思決定をする視点を提示する。 【学びを振り返る】 ④学習活動（協働学習への姿勢）を振り返る。 【学びを支える】 ⑤対話的な学びを通して、探究活動の相互検討を行うと同時に、一人一人が意見を出しやすい人数設定及び一人一人の対話を保障する流れの設定を行う。
四	1	7 料理コンクールによる振り返り 8 社会に広げる活動提案	【関心・意欲・態度】②：ワークシート 【技能・表現】②：話し合い活動時の発言観察 【知識・理解】②：ワークシート 【学びを振り返る】 ③コンクール形式でクラス全体での振り返りを行う。 ④学習内容「健全な食生活の在り方」について考える。 【学びを引き出す】 ②考案した「米料理」を社会発信していく活動を提案する。

5 本時の学習

(1) 目標

米料理の考案に向けて、消費者市民の視点を持ち、堅実な意思決定を行う。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 10分	1 本時の目標を確認する。 学習目標 (めあて)	○前時までの学習を振り返ると共に、米を取り巻く現状を再確認した上で、本時の学習内容を把握する。	
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>企画「米を食べる！」 ～消費者市民の視点に立ち、うるち米・もち米・インディカ米から、2種類の米料理を考案しよう～</p> </div>			
展開 35分	2 米消費量を自己分析し、米に対する「思い」を基に、「米料理」のテーマ及び献立を考案する。 (1) 自分なりの考えをもつ。自分の考えとその理由をワークシートに表現しよう。 (2) 互いの考えを交流する。 (3) 班で「テーマ」及びそれを体現する「米料理」を決定する。	<p>【視点1】学びを引き出す ①生徒が主体的に企画する探究活動（「米への思い」を表現する調理実習）を設定する。 ○テーマ設定については、消費者市民の視点の5つの視点のうち2～3を取り入れるようにアドバイスを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A 日本の食料自給率、米や小麦の消費量の推移等について考えること。 B 日本の伝統的食文化を引き継ぎ、次の世代につなげること。 C 日本の農業などの産業のあり方について、考えたものであること考えたものであること。 D 循環型社会に対応し、安心・安全であること。 E 食べた人がうれしくなること。</p> </div>	ワークシート
	3 2班合同で相互検討を行う。 (1) A班がテーマと米料理を発表する。(2分) (2) B班からA班に質問アドバイス(1分程度×4人) (3) A班とB班が交代	<p>【視点3】学びを支える ⑤相互検討においては、一人一人が意見を出しやすい、2班合同(8～9人)の少人数とし、対話の視点を設ける。また、一人一人の対話を保障する流れを設定する ○豊かな対話になるように、相互検討の視点を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>— 相互検討の視点 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班で設定したテーマが、授業目標及び消費者市民の視点に沿ったものであるか。 ・そのテーマを体現する米料理となっているか。 </div>	タイマー表示
	4 相互検討を参考に、米料理を訂正する。	○再検討を行った箇所については、ワークシートに色ペンで記入をさせ、思考の可視化につなげる。	ワークシート
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>評価：思考・判断・表現（ワークシート・観察） B基準 うるち米・もち米・インディカ米を使用して2種類の米料理を考案している。</p> </div>			
整理 5分	5 学習活動に関して振り返る。	<p>A基準 B基準に加え、消費者市民の視点A～Eの中の3つ程を反映させた2種類の米料理を考案している。 (B基準に達していない児童(生徒)への手立て) ○米に対する思い確認し資料集等を活用し、国内外の米料理の例を例示する。</p> <p>【視点2】学びを振り返る ④班活動及び2班合同相互検討においては、協働学習への姿勢・他者への貢献等について、リフレクションを行う。 ○次時の調理実習の予告を行い、学習意欲を高める。</p>	リフレクション用紙

